

希望の海へ

清高会会報

発行 清高会事務局
〒424-8678 静岡県清水区折戸3-18-1
国立清水海上技術短期大学校内
(054) 334-0922

24号



<https://www.seikokai.net/kaihou/seikokai2023>



CONTENTS

- 1 会長挨拶 瀬上 力
- 2-3 校長挨拶 宮野 将之
新校内練習船二代目「かざはや」お披露目
- 4-6 在校生の声
- 7 新任教官 岩田 一
- 7-8 <投稿記事>
36期卒 小林 紘太郎
36期卒 小沢 佳祐
- 9-10 同期会開催報告 船倉 満夫
- 10 役員紹介・編集後記

会長挨拶

清高会会長 **瀬上 力**
(昭和42年卒・清水高1)



皆さんお久しぶりです。

皆さんのご協力により4年ぶりに会報を発行することが出来ました。今号より、情報化社会にあわせ、インターネット配信となりましたので、今まで以上に見やすくなるかと期待しています。

ここ4年間は、新型コロナの影響で学校を訪れる機会も激減し、令和元年10月の戸田巡航、令和5年3月の新練習船「かざはや」の船霊祭と同7月の理事会位でした。

来年あたりからは、以前とほぼ同じになると思っています。

久しぶりに開催した7月の理事会では、色々な意見が飛び交って有意義な理事会になりました。理事の皆さんの学校への熱い思いを感じました。会員の皆さんも清高会へのご意見等をお寄せください。

最後に、現在新型コロナとインフルエンザそしてプール熱のトリプルウィルスが、流行っています。どうぞ皆さん、気をつけて下さい!!

海技教育機構 ご寄附・募金のお願い 日本の船員教育のため、皆様のご支援が必要です。



(詳細はこちら)
<https://www.jmets.ac.jp/donation/>

3タイプの寄付金の種類があります。(1) 使途特定寄附金等 (2) 募集特定型寄附金 (3) 一般寄附金等
寄附者は個人、法人を問いません。

例えば(1)の場合、応援したい特定の学校に対する寄附や「清水校の教材整備に用いること」といった使い道を定めた寄附金ができます。JMETSの練習船での「洋上での航海訓練の充実のため使用すること」といった使い道も。(QRコードのURLから詳細をご確認をお願いします)

※ JMETSは所得税法施行令第217条第1項第1号及び法人税法施行令第77条第1項に掲げる「特定公益増進法人」ですので、税法上の優遇措置を受けることができます。

校長挨拶

Becoming a principal, the most wonderful memory ever, both before and after, is being able to contribute



新校内練習船 二代目「かざはや」 お披露目

国立清水海上技術短期大学校
校長 宮野 将之

清高会会員及び卒業生の皆様には、平素より温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。令和2年度より校長を拝命いたしました宮野と申します。教員歴は今年で27年目となり、その内、本校勤務は、平成19年度からで、偶然にも長く、2回目の赴任で計15年になります。校長就任当初は、コロナ大流行期であり、急遽の授業中止など多くの学校行事が実行できない状況であり、昨年度は台風15号の被害による清水区の断水で、学生を帰省させざるを得ないなど、大変な試練を与えられています。これまでの教員生活におきましても、色々なことがありましたが、何とか無事にここまで来れましたのは、ひとえにこの会報誌をご覧になっている皆様のおかげと心得ております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

さて、校長となり後にも先にも最もすばらしい思い出となるのは、校内練習船二代目「かざはや」の誕生に協力できたことです。

初代「かざはや」が就航したのが平成6年で、小職が赴任した学校の「わかしお」、「月山」、「はりうす」などもほぼ同じ時期に誕生し、これらの校内練習船と共に教員生活の大半を過ごし、小職の教員としての力量を育て上げるステップ、そして、これらの校内練習船があったからこそ、多くの卒業生を船員として輩出することができたものと考えております。

初代「かざはや」は就航から令和5年3月までの28年間、およそ2,800名の卒業生の船員の卵の鍛錬場として、最後の最後まで大活躍しこの場を後にしています。その後は、残念ながらスクラップとなりました。

二代目「かざはや」については、計画段階から立ち会うこととなり、建造に先立ちまして、どのような船にするのか、初代「かざはや」におけるメリット、デメリットを整理した上で設計を依頼いたしました。当

時はコロナ禍における実習で密を避けることが大変困難であるという考え方が先立ち、コロナ禍での問題点を乗り越えるという考えも従来より練られていた構想に付け加えて検討いたしました。

二代目「かざはや」は、令和5年3月に福岡県北九州市にあります東洋造船鉄工(株)で建造されました。回航は、造船所が委託した業者により行われ、関門海峡、瀬戸内海、鳴門海峡、太平



二代目「かざはや」

洋を通過し、3月21日に折戸専用岸壁に到着し、引き渡されました。

二代目かざはやの特徴について、紹介させていただきます。

まず、構造から説明いたしますと上層の甲板から船橋、実習室、機関室・機関制御室及び休憩室の三層（初代は二層）からなっていて、あらゆる場所において十分な広さを確保することができました。本校は全国に7つある海上技術学校及び海上技術短期大学校では最大の学生数であり、そのため船舶を使用した実習においても1回の配員が必然的に多くなり、これまでは他校と同じ広さの船舶を使用していたため、大人数により実習をするのに十分なスペースの確保ができなかったという面でも多くの問題を抱えていました。荒天、特に強雨時の実習では、全員が室内に入って実習することが難しく、実習を中止とせざるを得なかったことや、また、新型コロナウイルス流行期は、密を防ぐことができない状況でした。



R5.3.10 売船のため専用岸壁を後にする初代「かざはや」

to contribute to the birth of the training ship "Second Generation かざはや".

主要目比較

初代「かざはや」

全長 22.86m 幅 5.5m 深さ 2.05m
 総トン数 44トン
 主機関 4 サイクルディーゼル機関
 連続最大出力 600PS
 3 翼可変ピッチプロペラ
 モノベックシリンダ舵（最大舵角 70 度）
 最大速度 10.9 ノット
 定員：乗組員 4 名、その他の乗員 46 名

二代目「かざはや」

全長 19.79m 幅 6.0m 深さ 2.90m
 総トン数 56トン
 主機関 4 サイクルディーゼル機関
 連続最大出力 800PS
 4 翼可変ピッチプロペラ
 モノベックシリンダ舵（最大舵角 70 度）
 最大速度 11.3 ノット
 定員：乗組員 4 名、その他の乗員 46 名

船霊祭



初代かざはやは、航海計器類は、船橋甲板のみに設置されていましたが、二代目かざはやでは、船橋甲板より1つ下層の中層の甲板（上甲板）にある実習室にジャイロコンパス、レーダー、ECDISを設置し、それらを使用した実習が可能となった。船橋・甲板（おもて、とも）・機関室の三配置の学生が、室内での実習に切り替えた際に別の場所で、実習することが可能となりました。

機関室及び機関制御室については、初代かざはやでは広さの関係で5名程度しか入直できなかったものが10名入直しても、まだ余裕があるほどの広さとなりました。また、深さが増した分だけ天井高さが高くなっているため、これまでは、機関室内での移動は、ほぼ中腰の状態であったが、直立して歩行することができ、身動きが容易となり、安全面においても向上しました。

最上層の船橋は、初代かざはやでは、最前面窓の直下に操舵装置、操船コンソール、レーダー、ECDISなどが設置されていましたが、二代目かざはやでは、より効果的な航海当直及び見張りを学ばせることを可能とするために、操舵装置や操船コンソールなどを少し船橋後方に下げ、船橋最前面には、操船者や見張り者が立てるように間を空け、ジャイロコンパスを設け、

見張りがし易い構造としました。^④

甲板上的特徴として、幅が50cm広がった分だけ両舷にある通路や階段が広くなり、初代かざはやでは舷側の通路においては、人がすれ違うことが困難であったが、これが容易になりました。^⑤

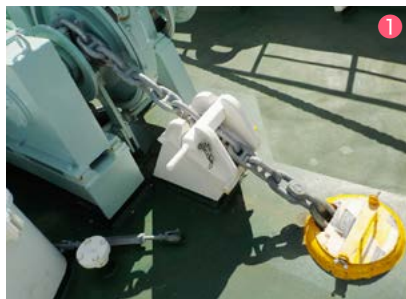
船首部では、これまで錨鎖庫を設置する都合上、船首の一部が一段高くなっていましたが、二代目かざはやでは、十分な深さがあるため、一段高くする必要もなくなり、上甲板外周も含めて、全て段差がないバリアフリーに近い構造となったため、船首全体も広くなり、実習を行う上で動き易く、段差による躓き等の危険性もなくなりました。^②

揚錨機（ウインドラス）周りの構造についても、これまでは操作性を優先した特殊な構造となっていたが、二代目「かざはや」では、授業における理解度を高めるために従来型の構造としました。^①

最後に航海計器を始めとして、最新の機器類を装着したことにより学習効果を高めることにはかなりの期待ができるものと考えています。^③

以上ではございますが、二代目かざはやについて、ご紹介させていただきました。

今後ともご支援・ご協力の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



① 船首部 揚投錨装置 ② 船首部 ③ 船橋内部 操船コンソール及び操舵装置 ④ 船橋内部 最前面 ⑤ 上甲板左舷通路 ⑥ 実習室 ⑦ 機関制御室 ⑧ 船尾側から見た機関室

在校生の声

令和5年4月入学 専修科第38期生

1年A組

家田 紗耶



私は中学生の頃にレストラン船のシェフになりたいと思い、食物の知識や調理の技術を学べる学科のある高校へ入学しました。あまり大きな声では言えませんが高校では勉強よりも部活動に打ち込む毎日でした。そして食分野

を三年間学びながら船の料理人について調べていくうちに航海士、機関士という職業があることを知りました。調べれば調べるほど、航海士や機関士の方々が働く姿を「かっこいい」と思うようになり、将来は航海士になりたいとの思いで本校への進学を志望しました。

入学してから半年間、沢山の学びと経験をしました。親元を離れ、寮の仲間と生活し、幅広い世代の方と関わり、様々な困難を乗り越えてきました。

入学してから今までで印象的なことは、クラス全員で支え合いながら勉強していくことで、実習・実技では、できないことは全員で教え合い自分が得意な分野は積極的に仲間に教えあっています。

また、私のクラスは社会に出て、沢山の経験をされてから入学している方が多くいますが、年齢差を感じさせないくらい仲が良く、活発なクラスで、教官方と日々笑い合いながら過ごしています。時には経験豊富な年上のクラスメイトが教官のように教えてくれ

たりもします。そんな年上のクラスメイトに負けないようにまじめに努力できる現役生。クラス全体が支え合い、高め合えるような関係性ができているような大好きなクラスです。これから二年間そんな素敵な仲間と共に学び、船員になれる日を夢見ています。

思えば、高校三年間打ち込んだ部活動の関係にも相通じるものがあります。私にはチームで一つの目標に向かって切磋琢磨していくのが合っているのだと気付かされました。船長、航海士、機関士をはじめスタッフ全員、船全体で一丸となって安全な航海を目指す船乗りもまた同じだと思います。

この文章を読んでいる卒業生の皆さんはどのような景色を見えますか？学生の頃に夢見た世界でしたか？沢山の経験をし、沢山の思いがあると思います。皆さんのような格好いい船員に憧れ、そして私も数年後に、沢山の思いと共にその場に立てる日を楽しみに日々努力をし続け、成長していきたいです。

1年A組

小鈴 智大



私が国立清水海上技術短期大学の入学を目指したきっかけは、高校3年生の時の乗船実習の際に、以前、海技教育機構で働いていた経験がある教官から「清水海上短大を目指してみろ」と勧められたのがきっかけです。しかし、最初はあまり乗り気ではありませんで

した。ところが、乗船実習で実際に当直に入って作業をしたり、配管図作成などの課題を行っていくうちに、私自身の知識不足を痛感し、また、甲板部の方々の仕事を間近で見っていくうちに甲板部の仕事にも興味がわいてきました。その時に担任の先生から「清水の学校説明会に行ってみたらどうか」と勧められ、説明会に参加することにしました。

実際に参加してみて、2年間で4級海技士の航海と機関の両方を取得できることや、高校ではやっていない実習や2年生の時に行わ



在校生の声

れる大型練習船での9か月間に及ぶ乗船実習に魅力を感じてこの学校に入学しました。

入学当初は、初めての寮生活で慣れないことが多く、我慢の連続で授業についていくのもやっとでした。そして、入学から半年が経ちましたが、まだまだ教官から叱られることも多く毎日が勉強の日々です。また、実習では高校とは違うやり方などに戸惑いもあり失敗することも多かったですが、最近では、教官達にも褒められる事も多くなり少しずつ自分自身の成長を感じるようになりました。これからは、実習も座学も高度になっていき正直ついていけるか不安ですが「負けじ魂」でくらいついていきたいです。

私の将来の夢は、大型船の機関士そして機関長になることです。最近では、上級海技士の勉強を始めました。これからも、夢へ向かって清水38期生の皆と切磋琢磨しながら成長していき皆で笑顔で卒業式を迎えられるように頑張っていきます。

1年B組



川波 空羽

国立清水海上技術短期大学校に入学してから早くも半年が経ち、肌寒い季節がやってきました。本校に入学してから全てが新しい経験で、毎日の

授業、海上実習、寮生活など、私が今までに経験したことのないあまりにも濃厚で充実した生活を送っています。私は高校で日本を離れ、サイパン島という島に留学していました。そこでいかに船という存在が世界の人々を救っているかということに気づきました。それが、私が船員になりたいと思った強いきっかけです。また、私の従兄弟がタグボートの船員であるため、船員という職業に魅力を感じました。

本校に入学した初めの頃は船のことは無知でしたが、本校の授業は基礎の基礎から学べるため、無知の私でも授業について行くことができました。また、わからないことがあればすぐに教官方に質問できるので、すごく勉強しやすい環境を過ごせていると感じています。

毎日の学校生活を友人と過ごしていますが、友人と言ってもライバルです。とても仲は良いですが、航海実技や機関実技での出来栄を友達と競い、自分より友人の方が教官に褒められているとかなり燃えてきます。しかし、友人と競い合うことのできるこの環境だからこそ自分の成長を身をもって感じるすることができます。

来年の4月からは、9ヶ月間の乗船実習が始まります。不安もありますが、とても楽しみです。

乗船実習まであと半年間、学校生活の1分1秒を大切に、毎日価値のある日々に変えて、乗船実習までにできるだけスキルを身につけたいと思います。

1年B組



梶原 怜華

私は今年の春一般大学を卒業し、国立清水海上技術短期大学校に入学して、あっという間に半年が経ちました。

船や海についての知識

がほぼなく、既卒者としての入学に初めは不安もありました。ですが、日々新しい学びに触れていく中、一つ一つの勉強が現場で生きる知識の積み重ねであり少しずつではありますが、ようやく身になってきたように感じています。更に、わかることが増えるにつれて、実技や実習を通して習得することに対する楽しさも増し、目標もより明確になり、入学当初より「船に乗りたい」「船員になりたい」という思いが強くなりました。

寮生活では、もう折り返し地点にいると思うと寂しい思いになるほど、毎日たくさん笑い合っていて私にとって特別な毎日です。

また、私は夏休みに内航船体験乗船に参加させていただき、海運業として、経済活動を維持していく上での船舶運航の重要性や、日中夜間わず物資の輸送を盛んに行うことで、社会インフラとして機能していることを、身を持って知ることができました。そのような船舶の運航に携わる現場の方々には、安全運航を達成するために一人一人が責任感を持って職務を果たし、チーム一丸となって航海している姿に感銘を受けました。

来年からは乗船実習も始まり、より実践的なスキルと幅広い知識が必要になると思うので、掃除、挨拶、健康管理、マナーなど基本的な人間力をより磨くとともに自分が就職してから実際に現場に立つ姿を想像して、残りの1年半を無駄にせず、悔いのないよう努力していきたいです。



在校生の声

1年C組



高村 直暉

正直、私は最初海の仕事というものがどのようなものかわかりませんでした。海の仕事と言って初めに思い浮かぶのは漁師が魚をとっているような普通のものでした。

しかし、この海上技術短期大学校に入学してから海の仕事についてのイメージが180

度変わりました。まず船員というものの厳しさを感じました。

入学式の次の日から徹底的に掃除し、時間厳守、1日に8時間の授業そして1日の終わりの巡検。

初日が終わって感じた感想としては「ここは軍隊か」と思いました。しかし、半年経った今ではそれらも全て意味があると感じます。この学校で学ぶ事は船員としての技術や知識だけでなく、船会社の方から求めたくなるような船員としての礼儀や立ち振る舞い方も学ぶことができるという事が他の海上技術短期大学校とは異なる所であると私自身考えています。

そして、私がこの学校に来て一番驚いた事は生徒全員が明確に「夢」を持っているという事です。高校までの友達でこれほど明確に夢を持つ人はいませんでした。とりあえず就職に有利だから大学に行くというような人が多いように感じました。それが悪いという訳ではなくむしろそれが普通だと思います。

だからこそ、同じ18歳の学生達が明確な夢を持ち、自分の意思でこの学校に入学し努力を続ける姿を見た時感銘を受けました。

そして同時に今までの自分の甘さを反省し、心機一転ここからやり直そうと思いました。

毎日が今までに習ったことのない新しい知識や体験で楽しく、一方で大変なことも多いですが充実した日々を過ごすことができます。このような日々を過ごすことができるのも、両親や教官方がいるおかげであるということに感謝しながら日々努力を欠かさず自分の思い描く理想の航海士になれるよう頑張ります。

1年C組



新塘 咲希

船乗りになろうと決めた一番の理由は、推しです。

わたしの推しは、フランスの小説『モンテ・クリスト伯』の主人公、エドモン・ダンテスです。

この物語は日本では『巖窟王』という題名でも知られている復讐譚ですが、ダンテスは復讐をする前は航海士でした。ダンテスが見ていた景色はどのようなものだろうかと、昨年南フランスでフェリーに乗りました。甲板上で夕日を眺めていた時、ふと覗いた操舵室で見た女性航海士のカッコ良さに惚れ、船乗りになることを決意しました。

国立清水海上技術短期大学校には船のことを全く知らずに入学し、初めての集団生活で不安もありました。しかし、そのような不安は嘘のようで、楽しくて仕方がないです。女子寮は人数が少ないので、みんなのことを家族のように思っています。テスト前は教え合い、励まし合いながら勉強しています。

また、わたしは絵を描くのが好きなので、学校の広報で使用するオリジナルの軍手や、横断幕のデザインをさせていただきました。規律を重んじるのはもちろんですが、個性を活かしてくれるあたたかい学校だと感じています。

もともとは航海士に興味があって入学しましたが、内航船体験乗船の際に見た大きなエンジンに圧倒され、機関士志望になりました。早く機関のことに詳しくなりたくて、毎日先生方を質問攻めにしていきます。メインエンジンや全ての機械たちを安心して任せてもらえる機関士になることが目標です。

後期からは級長を任せていただけることになりました。半年間という短い時間ですが、Cクラスの仲間たちが楽しく穏やかに過ごせるよう、努めていきます。



新任教官

Challenge!

岩田 一



昨年12月に国立清水海上技術短期大学校に機関科講師として着任しました岩田一と申します。

福岡県出身で、一昨年5月に独立行政法人海技教育機構に中途採用され、国立波方海上技術短期大学校機関科、練習船機関士、機構本部学校教育課勤務を経て現在に至ります。

前職は海上保安官で、警備救難業務を中心に船艇乗組員10年と陸上職員16年間の合計26年間勤務し、教育とは縁の無い業務しか経験していませんでしたが、新たなチャレンジを求めるとともに、近年の船員不足解消の一助になればと思い、機構への転職を決意しました。

教員として、まだまだ未熟ですが、先輩教員方の指導をいただきながら日々業務に励んでおります。

さて、最近の本校の近況についてですが、28年振りに校内練習船かざはやが代替えとなり、本年2月1日に北九州市での命名・進水式を迎え、3月21日に引渡しを受けて本年度から海上実習で運用されております。



新かざはやは、航海計器類が最新のものに一新され、船橋と実習室が拡充されて実習環

境が向上したほか、操船に関しては、船橋と実習室の拡充に伴って船橋構造物が大きくなり、風圧面積が増大したことから、特に入出港に際しては、細心の注意と卓越した操船技術が求められることとなり、学生の技術向上に資するものとなりました。

また、機関室と制御室も格段に広くなり、より安全に実習を行うことができるようになっております。

その他、本年9月には、全国の学校等で食事を提供していた食堂運営会社ホーユの破産に伴い本校においても給食が停止し、これまで誰も経験したことのない事態に陥りましたが、校長先生を中心に教職員が一丸となってこれに対処し、速やかに新しい給食会社を選定のうえ契約し、給食が再開されることとなりました。

このように、連日のように日々変化と刺激を受けておりますが、これら全てを自分の経験とし、本校学生から在学中はもちろん、卒業後も模範とされるような教員を目指していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

先輩から

投稿記事

小林 紘太郎 36期専修科卒

国立清水海上技術短期大学校を卒業し、半年が経ちました。現在私は、ガソリンなどを運ぶタンカーで甲板員として働いています。

初めての、実習生としてではなく社会人としての乗船に、最初は不安で右も左もわかりませんでした。ですが、先輩や上司の方々がとても暖かく受け入れてくれ、仕事や船内生活について、よく教えてくださいました。そのおかげで船の雰囲気にも慣れることができ、まだまだ注意されることも多いですが、少しずつ仕事を覚えていくことができました。

そこで、学校で習った基礎のロープワークや、航海計器、船体構造についての知識などは、上司にわからないことを聞いたりするときにも、とても役に立ちました。



また、寮や実習船で行っていた毎日の掃除、出身や境遇の異なる人たちとの共同生活は、社会に出てもその経験を活かすことができました。特に掃除は、1番最初に見られ、評価される場所だと思うので、2年間教官方に指導してもらって本当に良かったと思います。

私は入社して半年の新人で、覚えることもまだまだたくさんありますが、もう半年後には次の新人も来るので、自分が先輩方にしてもらったように、その新人に仕事を教えることができるようになることを目標に、精進していきます。

また、辛いこともまだまだあると思いますが、清水海技短大で仲間と切磋琢磨したことや、教官方からのエールを思い出し、がんばろうと思います。

先輩から

投稿記事

小沢 佳祐 36期専修科卒

今春に学校を卒業、そして4月に入社をして早半年が経過しました。新しい環境でやっていけるのか、当初は不安もありましたが今は仕事や環境にも慣れてきて楽しい毎日を過ごしています。

私が入社した株式会社小島組は港内の浚渫工事や埋め立て工事を主に行っております。浚渫という言葉はあまり馴染みがないかもしれませんが、港内や航路の水深を確保して船舶が航行できるようにする、海運業にとって欠かすことのできない重要な工事を担っています。

現在私は機関員として浚渫船に乗船しています。初めて行う作業やわからないことは機関長や先輩が教えてくださり、とてもものびのびとした環境で仕事ができています。

乗船して感じたことは、機器のメーカーや会社のやり方の違いはありますが、ほとんど学校や練習船で学んだことを応用して行う作



業が多い印象です。現在行っている主な業務は見回りや記録を取ったり燃料消費量の計算などですが、最近は主機の発停や発電機の切り替えなど、機側での作業を任せただけようになり自信がついてきました。とはいえ覚えることはまだ沢山あるので、1日でも早く仕事を覚えられるように精進していきたいです。また、仕事に慣れてきたとき

というのは事故が起こりやすい時期でもあるので、今一度気を引き締め安全第一を意識しながら業務を行いたいです。

これから先、さらに覚えることは増えますし、教えられる側から教える側にならなくてはいけません。その事を思うと正直不安です。しかし、それと同時に期待に応えようと燃えている自分もいます。プレッシャーを感じすぎず、今できることを精一杯やりながら楽しんで仕事を続けられるよう今後も励んでいこうと思います。

国立清水海上技術短期大学校データ (学校公式 HP より)

就職率 100%

※就職率：就職希望者に対する内定者の割合 (令和2年度)
(進路 海上就職 96% 進学 4%)

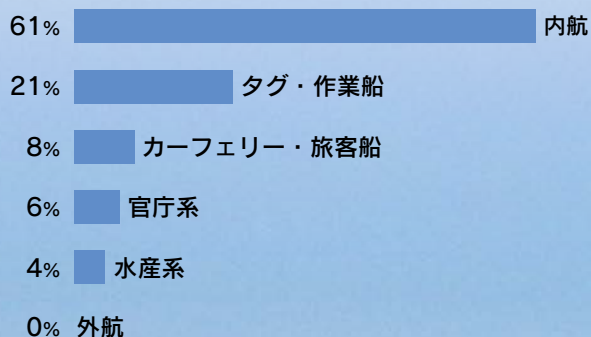
国家試験合格率 (四級海技士)

航海 100% 機関 100%

入学者学歴 高校卒 90% 大学・短大卒 10%

学生数 224人 (男 201人・女 23人)

海上就職内訳





コロナ禍を乗り越えて 我々の同期会も 4年ぶりに開催

船倉 満夫

昭和43年高等科卒

2015年の清高会の同窓会開催を縁に同期生と会える機会が出来て2017年、2018年、2019年に清水、浜松、熱海と場所を変えて同期会を開催してきました。しかし2020年のコロナ発生以来世界中で人が集まる事を自粛して参りました。今年はそれが解禁されて日本中で笑顔が舞い戻ってきました。

我々の同期生の間でも「また同期会をやって集まりたいね」と言う声が多く聞かれて今回清水で同期会を開催してきました。

10月14日(土)～15日(日)開催 スタート地点は折戸に決定

清水海員学校(清水海上技術短期大学校)から1分の所にある「地域の皆様の生涯学習の拠点として、利用しやすい交流館をめざします」をコンセプトとしている「清水折戸生涯学習交流館」と言う施設の会議室を借りて行いました。学校からの紹介で知る事が出来た場所です。

卒業以来55年分のあれこれ、それぞれの人生観を思う存分語り合う非日常の世界にレッツゴー!

第一弾

まずは55年間の時間を取り戻す為、各自に卒業以来の55年分の人生を思う存分語って頂きました。

今回は卒業以来55年ぶりに会える同期生も参加してくれる事になり、ワクワク・ドキドキの始まりでした。船員生活の話、結婚して家庭を持ち子供もでき、更に孫もできて中には「ひ孫もいます」と言う方もいて、それぞれの55年の素晴らしい人生そのものが披露されました。

そんなこんなで考えた懇談会では、いや～そんなことがあったんですか?いや、俺もこんな事があったんだよと途中からヤジが入るやらそもそもここまで生きてきてなにもないのがおかしい、胃痛になってきた、肺癌になってきた、大腸癌になってきた、でも克服してきた、いや私は生活習慣病の代表格である糖尿病歴20年とか全寮制の生活を通して何でも話し合えるし、その内容もどんどん突っ込んで行って正に口、ほっぺた、お腹のリハビリにびったりでした。

それを伝え合うには2時間や3時間では出来得ないものと思い、2日間をかけて思う存分たっぷり時間をかけて皆で語り合いたいと計画した次第です。

最後に学校の内容に詳しい地元在住の卒業生を招待し、学校からも学校案内、募集要項、オープンキャンパスチラシの提供を受け懇

談会をおこない、我々の時代の海員学校と海上技術短期大学校の違いを語り合いました。

そして第一弾終了後には学校のまわりを散歩しながら「この校舎、この寮、食堂は我々が建てた物だね」と話しながら55年前の出来事を語り合いました。(我々が在校時に台風に遭い、学校設備が半壊して校舎や寮が木造から鉄筋へと変わった時代を経験した唯一の卒業生です)

第二弾 その1 いよいよ本番の懇親会になります

前回の総会で使わせて貰った港橋の「なすび総本店」が舞台です。第一弾ではアルコール抜きでしたが此处からはアルコール飲み放題、カタフリの潤滑油が順調に体全体に回ってきました。

8人ほどの小規模の懇親会でも個室で我々だけの世界を楽しませて貰いました。外から見えないのは良い事がかしまって飲むより立ち上がって差しつ差されつお酌をしてなんだか椅子は不要ではないかと思える場面もかなりあり、それぞれの話に夢中になれる個室は最高でした。



第二弾 その2

懇親会では2時間半で体中にアルコールが十分入り次のコースへ飛び立つ用意も出来ました。

2次会はカラオケスナックとし、新清水の飲み屋街で楽しむようなカラオケスナックを探して突入!我々の同期生には先生と言えるようなとても聞き惚れるような歌手がいて、その歌いぶりを期待して我々凡人は取りあえず前座歌手として「マイクのテスト中!」で真打ち登場を待っていましたが、「おっとどっこい!」カラオケを楽しむのは歌だけではないことを今回教えて貰いました。歌はそこそこ(@_@)、その歌っている間のパフォーマンスに惚れ惚れの人が今回の55年ぶりに参加してくれた人!なんて言ったら歌っている間に四股を踏んじゃったりして周りの人達も口をあぐり!フロアの床が抜けてしまうのでは?と思えるほど気合いの入ったパフォーマンスに皆拍手喝采!今の遊び人はそんな我々のことも受け入れてくれて他のグループで来ているプロ並みの人、毎日来ている

歌好きな客と共に歌い、マイクの取り合いみたいに店全体が我々を中心に多に盛り上がってしまいました。学校卒業時には感じなかったこの様な変化を見る事が出来たのも55年ぶりに会えた同期生の変貌ぶり（成長ぶり？）を共に目撃出来た事も2次会の楽しみでもありました。

第三弾 10月15日(日)

ジャンボタクシーをチャーターして三保の松原～日本平～清水ドリームプラザ迄ドライブ、更に清水港内遊覧船に乗って港内を回る楽しい1日です。ホテルまで迎えに来たジャンボタクシーの運転手はとても優しく清水の案内もしてくれて話は盛り上がりました。「我々は清水海員学校の卒業生です」と話したら、その運転手は「私は清水南高校の卒業生です」と紹介してくれ、「あれま、隣同士ですね!」とお互いにびっくり。そんなこともあり運転手の方はどんどんサービスしてくれて我々が行きたい所を言っても寄り道して楽しいドライブが出来ました。

三保の松原は入学後初めての外出日に同室になった友達と前浜から海岸線をとことこ歩いて行った記憶が鮮明にあり、今回は是非行ってみたいと思ったところです。我々の頃は三保の松原と言っても単なる景勝地でさほど有名ではありませんでしたが、今では「世界文化遺産 富士山の構成資産」の一つとして登録され、自然を保護する観点からも綺麗に保存されていると感じました。

散歩コースも整備されていたので松林の中を皆で55年前を思い出しながら散歩出来て大変良かったです。55年前と現在の世界文化遺産登録後の違いを感じる事が出来てとても良かったです。

さて次のコースは日本平です

日本平の思い出は入学後の1学期に遠足で学校から文字通り歩いて登った記憶があり、是非もう一度登ってみたいと思ったところです。55年前は歩いて登れましたが今は無理でジャンボタクシーに乗って行き、頂上には「日本平夢テラス」と言う展望施設が2018年に出来たそうでこちらへ行って360度パノラマ状態で清水港、静岡、焼津、駿河湾と見る事が出来て、特に清水港を見渡せる場所は綺麗でした。さてドライブでの清水見学も後は波止場へ行って清水港内遊覧船に乗って港内を遊覧するのみとなりました。

此处でいつも清水に来ながら行かれなかったある場所へちょっと寄り道

30年前に「清水海員学校50周年」を記念して清水港税関横にポールを建て、その記念として記念碑を建てられました。当時、卒業生に対して寄付が呼びかけられたので、賛同者の名前がある筈だと思います。波止場で降りる前に寄って探してみました。

ちょっと探しましたがポールを見つけ「あった!」となり、「希望の海へ」と書かれた碑の後ろに寄付した人達の名前が刻まれている自分の名前を見つけて「あった!」、他の友達の名前も見つけて皆で実際に此处に30年前に来た事の証明をして喜び合いました。この

30年前の記念式典開催から学校の清高会活動が継続的に繋がって来た様に思います。この時は我々の同期生もたくさん来て静岡で1泊し翌年も御前崎で1期生と一緒に同期会をおこなった楽しい思い出も出て、寄ってとても良かったと思いました。

さて次のコースは清水港内遊覧船。清水港、興津港までの港内1周。もう雨はどこかに行き海は風状態、気持ちよく乗って三保の松原、興津港方面まで短い航海を楽しむ事が出来ました。我々の頃はヘドロが多く真っ黒な海でしたが今では透き通って海底まで見える感じ。三保内浜海水浴場沖で3kmの遠泳をした事、「端艇訓練で此处いら辺まで来たよね」と皆で話して清水港内の遊覧を楽しみました。わずか40分の港内周回でしたがやはり潮の香りは最高でした。

第四弾 清水エスパルスドリームプラザはとばキッチン（ビュッフェ）で食べ放題昼食と飲み放題

いよいよ最終コーナー、清水エスパルスドリームプラザ内のはとばキッチンビュッフェ食べ放題、飲み放題に挑戦です。

「食べ放題、飲み放題」をリクエストしたら「3杯以上飲まないで元が取れません」と言われて、プレッシャーがかかってしまいました。「昼からガボガボ飲むのもなあ」と思いつつ、「元は取らなきゃいかん」と言う事で一致し、おいしいビールを飲みながらこの2日間の同期会の最後を更に「あれだ、これだ、それだ」と学校時代、船員生活、陸へ上がったの生活とまだまだ出てくる我々だけの話題にカタフリも最高潮に達しました。40分1本勝負の食べ放題、飲み放題も後ろ髪を引かれる思いで終了。

清水駅へタクシーで行き、駅前の土産物屋さんなどを見ながら清水駅から静岡駅へ行き、解散となりました。清水駅から静岡駅に向かう途中で振り返ったら、やっと富士山を見る事が出来ました。それも頂上付近は冠雪していてラッキーでした。今回の同期会開催では清水海上技術短期大学の関係者の皆様、清高会の関係者の皆様の協力が多くあり楽しくおこなう事が出来ました。有り難う御座いました。そして何より今回地元静岡県、埼玉県、石川県、福井県、兵庫県、広島県、更に福岡県から時間とお金をかけてやって来てくれた同期生にとっても感謝しています。とても楽しい時間を有り難う御座いました。皆さんに会えて全ての友達的笑顔を見る事が出来てとても嬉しく思っています。これは参加した友達全員の気持ちと思っています。

2日間、満面の笑みで話題の尽きない時間を共有出来た事は非日常の極みで、素晴らしい事と思っています。次回開催を期待するには皆が健康に過ごして貰える事が一番!次回を楽しみにしています。



学校から紹介してもらった清水折戸生涯学習交流館にて

■清高会役員紹介（学校関係者以外）

会 長	瀬上 力 (S42年卒)		
副会長	植田隆吉 (S38年卒)	松見 準 (H6年卒)	
理 事	小島敦夫 (S29年卒)	萩原 浩 (S33年卒)	大木 明 (S35年卒)
	清水昭一郎 (S36年卒)	大貫正博 (S42年卒)	杉山輝男 (S42年卒)
	成澤五郎 (S42年卒)	船倉満夫 (S43年卒)	風間茂樹 (S44年卒)
	有田義雄 (S48年卒)	泉 昭宏 (S52年卒)	對馬敏勝 (S62年卒)

■編集後記

今号から会報がPDFになりました。これで船からでも読めるようになります。現在の学校の様子。夢を持つ学生たちの面々。同期会の報告など。

一足先に海運世界に入っていた卒業生が今の在校生を知り、業界をより良くしたいと考えたり、船員養成機関、学校の発展を考えることにも繋がっていけば嬉しい。ご支援・ご協力、記事提供などよろしくお願ひいたします。
(編集 松見 準)